

★【教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること】

教員養成の目的

本学における教員養成は、建学の精神、人材養成の目的を基盤とし、学部学科の掲げる教育目的を達成することを目指している。

これからの教員に求められる資質能力等は、これまで不易とされてきた使命感や責任感、専門的知識、実践的指導力等の資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢、資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力、情報を収集・選択・活用する能力や知識を構造化する力であり、また、ICT の活用、特別な支援を必要とする児童生徒等への対応など、新たな課題に対応できる力である。さらに、多様な専門性を持つ人材と連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組むことができる力の醸成も求められている。

これらを踏まえて、本学では、豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法、コミュニケーション能力等、「総合的な人間力」を育成するとともに、常に研究と修養に努め、専門性の向上に努める教員を、教員養成の目的としている。

目標を達成するための計画（大学）

1 年次

春学期のオリエンテーション期間に行う履修登録指導で、各校種の教職課程の説明を行う。内容は、具体的な履修方法、教育実習の履修条件等である。これらの説明を行ったうえで、学生には2年次の秋学期までに、主に学ぶ学校種を決定すること、教員として求められる資質の向上を目指して活動することを課題として与える。秋学期には、履修カルテの記載の説明等を行う。また「体験実習 a I」の授業にて、学校現場の体験活動を行う。学生は、体験活動のレポート課題を通して、現場で何を観察すべきかを徐々に把握し、子どもとの関わり方を学ぶ。

2 年次

介護等体験に参加する。春学期に特別支援学校、秋学期に社会福祉施設に赴く。また2年次の秋学期開始前に「体験実習 a II」の授業にて2回目の体験活動を行い、学生が自らの適性に気付く機会とする。秋学期からは、主とする学校種の科目を中心とした履修を行う。

3 年次

教育実習の事前指導等にて、教職指導をきめ細かく実施する。履修履歴を確認し、学生が自己の課題を明確にして実習準備に取り掛かるよう指導を行う。実習の事後指導では、課題の到達度を吟味させ、実習報告会に参加させる。また、教育ボランティアへ積極的に参加するよう促す。3年次秋学期からは、教員採用試験対策講座「アグネス塾」（正課外）を実施する。試験科目のほか、教員として求められる資質や実践的指導力の育成を目的としている。

4 年次

履修カルテをもとに、最終的な課題を確認し、教職実践演習で十分に資質や能力を磨くことができるよう意識づけを行う。教員採用試験対策としては、教職課程指導室において、面接指導、模擬授業指導、場面指導、実技指導等を学生個別に何度も行う。